

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900263		
法人名	アークエム株式会社		
事業所名	グループホームゆう希苑まごめざわ		
所在地	船橋市上山町3-616-1		
自己評価作成日	令和3年12月28日	評価結果市町村受理日	令和4年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和4年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本的な介護を見直して、食事や入浴の時間を変更したり、排泄ケアではご家族の協力や理解のもと、オムツ交換の時間の見直しや、個人にあったパッドの種類を用意して利用者様の負担軽減と介護者の負担軽減を行って来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点は①優しい介護、明るい介護をモットーに常に見守りながら利用者がその人らしく楽しく過ごせるように努めている。②長く入居されている方が多く、介護度も上がり約半数の方が車いす利用になっているが、下膳・食器洗い、お茶入れ、野菜刻み、洗濯物たたみなど、生活リハビリに取り組み利用者の生き甲斐となっている。③コロナ禍でも家族とは玄関での面会や、電話、手紙など利用者の日々の様子を伝え安心につなげている。④管理者は職員が話しやすい環境を整えモチベーションアップに努め、職員からは支援に対する多くの提案がなされ、意見が言い易く働きやすい職場環境と思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関の見えるところに掲示し意識づけをしておりますその内容に基づいた支援を心がけている。	「家庭的な環境の中で・個人の能力に応じた・地域コミュニティの中でその人らしく・」等の理念を掲げ、玄関に掲示している。一人ひとりに合わせた支援、その人の症状に合わせたケア、職員同士が統一された支援を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止の為、地域との交流については控えている。ボランティアの方からはお声かけて頂いています	自治会の夏祭りに参加し、知り合いからの差し入れやリサイクル用の布・タオル・雑巾を届けて頂くなどのなどのお付き合い、ダンス・フルート演奏等の地域ボランティアの来訪もあったが現在はコロナ禍で中止としている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	お問い合わせ等があった場合は出来る限り時間を作り丁寧にわかりやすくお話しさせて頂く。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止の為、職員間でのみ話し合いサービス向上に取り組んでいました。	運営推進会議はコロナ対策の為ホーム職員のみで実施し、入居者情報、職員状況、行事報告・予定、問題・改善、コロナ対策等の伝達を行っている。	運営推進会議は、以前参加されていた民生委員、家族会代表、地域包括支援センター等に議事録を送付し外部の意見を得る取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活援護課や地域包括支援センターの方と連携しながら独居の方を無事に入居させて頂くことができました。	感染症対策で健康保険課からアドバイスを頂いて、地域包括支援センターとは、ホームの実情や取り組みを伝え助言を頂いている。また、生活援護課とは生活に困窮した方の救済を協力し合って取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ない場合においてはご家族に説明し同意頂き経過観察し再検討をし記録に残している。	管理者は日々の業務の中で命令口調などの「言葉による虐待」に注意し、カンファレンスで不適切な拘束や行動は行わない事を話し合い、より良いケアの実践に努めている。徘徊や不穏な時は寄り添いながら心の不安を取り除くように努めている。	身体拘束の事例はなく常に話し合いはなされているが、「身体拘束廃止委員会」を年4回開催される事が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は虐待になりそうな案件があり、スタッフや利用者の方から事情を聞き、ご家族様と利用者の方に謝罪をし、会議でもスタッフ全員に周知して、再発防止など行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	言葉の意味や制度について職員会議等で学ぶよう知識の向上に努めている。成年後見制度についてはご入居者様で後見人がついている方がいるのでどのようなことをしているの少しずつ理解してきている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時利用者や家族の方からの質問、疑問については理解されるようにお話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置している。新型コロナウイルス感染防止の為、年1回の家族会とご家族の面会は制限している。よって定期的にお電話にて状況報告の際などにご意見を伺っている。ご意見があった場合には職員会議にて報告し運営に反映させることもある。	家族面会時や電話等の時に意見・要望を聞き出し、情報を共有しているが、今回のアンケートでも感謝の声が多いのが実情である。意思表示の困難な利用者は日々の表情や気配で要望や体調を見極め、支援に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、もしくは随時、意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させています。	管理者から明るく声掛けをして職員が話しを言いやすい環境を整え、シフトや仕事の悩みについて聞き出しモチベーションアップに努めている。職員からは季節のイベントに関するアイデアや支援に対する多くの提案がなされており、意見が言いやすく働きやすい環境と思われる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給休暇は全消化してもらうなど働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホームは小規模な施設なので管理者は職員の動きと力量が見える為その場で指導したり職員同士でも遠慮なく意見交換しお互いに成長できる環境を作っている。また、外部研修などのあればスタッフに声掛けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の管理者の方に入退居についての相談や、困難のケースについて、対処の方法など参考にさせて頂いたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や性格等を知り、その方に合う話し方や接し方に心がけているが入居後、環境の変化に伴いニーズ等が変わる事もあるので入居前の情報にとらわれず柔軟に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナの影響で苑に直接来られなかった家族様でしたが、まめに電話連絡をしご本人の状況を伝えております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	足腰などが痛い方が居る時は訪問リハビリマッサージについて説明したり、食べる事や歯に関して何かあれば訪問歯科を利用できることを説明し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方から手伝おうか？と聞いてくれたりしたら手伝ってもらいますし、できることは一緒に行ったりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会制限の中、来てくれた家族の方に職員は細かく状況を伝えたり、ご本人に必要な物があれば持ってきてもらうように声かけ、なるべく苑に来る頻度を増やす機会を作ったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入院していた精神病院にまた入院したいと言われた方がいましたが、話し合いや訪問医とも相談し通常受診ができるようにしました	以前は職場の同僚等の訪問もあったが、コロナ禍での面会制限のため、現在は家族のみ玄関での面会が行われている。また、ご家族の方に職員の助けを得ながら手紙を出したり、お孫さんから手紙を頂くなど馴染みの関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良しの方同士で過ごせるように食席を考えたり、夫婦で近くに座るようにしたりしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退居した後も、奥様一人で病院に行くのが難しいので、送迎や病状説明の同席など、できることは支援しました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりお話して希望や意向の確認しています。困難な方には家族様の意向を確認しながら本人本位になるようにスタッフと検討するようにしています	職員は日々の関りの中で常に声をかけ、利用者の思いや意向の把握に努めている。コミュニケーションが困難な利用者はジェスチャーや表情で確認しながら気持ちを汲み取り、その人にとって暮らしやすい生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、ご入居前のケアマネジャー等から情報を聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何が出来て何が困難になってきたのかを常に観察そして正確に把握し残存機能を最大限に利用できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、往診医などの情報を参考にし、カンファレンスや申し送り時に意見や方法等を話し合い、介護計画の作成に活かすよう努めている。状態に変化が見られた時はモニタリングをしてプランを変更している。	日々の気づきを大切にして職員同士で常に話し合い、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。状態変化が見られた際は、介護計画の変更を行い職員全員が共有し支援に努めている。	家族アンケートでは変更時の介護計画書の説明が不十分との声もあり、更に丁寧な説明が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や身体的変化、ご本人の様子等個別に記入し職員会議等で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時に荷造りや引っ越し等が困難なご入居者様については荷造り、引っ越しのお手伝いを職員が対応している。通院はご家族が対応困難な時は職員が対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の為地域のお祭りの参加や近所での買い物は控えている。ご家族がどうしてもと言われて、一度買い物に行って頂きました。施設内での楽しみを増やしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問医と家族様と相談しながら、必要であれば紹介状書いてもらい専門の病院で診てもらうようにしています。診察の経過などは訪問医に必ず報告しています。	日常の健康管理は、月2回の訪問診療医により行われており、状態変化時や緊急時にも24時間連携体制が整備されている。必要時には、訪問歯科診療や訪問看護を受けることも可能で、専門医への受診の際の通院同行についても支援体制が確立されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師等と密に連絡を取り身体的変化や対応等相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院するときは訪問医のところから情報提供書を書いてもらったり、ご本人様の様子について入院先の看護師に伝えたり、早期に退院できるように相談員さんとも連絡をまめにとるようにして対応しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期の方針についてご家族に説明をし同意をいただいている。実際に終末期となった場合は訪問医、看護師等と連携しチームで支援する体制になっている。家族様に意向の再度確認したりして入院された方もいました。	契約の際には、「終末期意向確認書」を用いて本人および家族の意向を確認しているが、心身状態の変化時には再度取り直しをしながら丁寧におすすめられている。今年度は、看取りの実績はなかったが、訪問診療医と家族、職員の連携体制が整備されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は直ちに管理者に連絡するようになっている。連絡がつかないときもマニュアル作成して対応するように伝えている。事故発生時も同様で、緊急性に応じてすぐ連絡するかどうかでも対応できている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行うようにして全員が身につくように努力している。コロナの影響もあり、地域とのつながり協力体制はまだできていない	防災訓練においては、通報、初期消火、避難誘導訓練を実施しており、飲料水や食料等の備蓄品管理も行われている。火災報知器の近くにヘルメット、消火器の近くにメガフォンを置く等の緊急時における工夫も行われており、日頃からの備えが徹底されている。	地域との協力体制については、運営推進会議で具体的に何をどのようにすすめていくか検討できるよう準備をしていくことが望まれる。また、BCP(事業継続計画)についても準備段階をすすめていくことに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人のプライドを傷つける言葉、対応をしないよう心がけている。重度の介護を要する方でこちらからの声かけに反応の無い方であっても誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。	職員は、身体状況によりコミュニケーションが困難な利用者であっても一人ひとりの尊厳を大切に声かけを心がけている。また、声かけや対応に関しては、職員同士が互いに話し合ったり、注意をし合ったりすることができる関係性が構築されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を引き出せるような声掛けに努めている。自己決定が困難な方には家族の意向を尊重するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床から就寝まで日常生活において原則とか規則はなく、ご本人のその日の状態やペースに合わせ、その都度調整しながら、その日の過ごし方に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人により好きな色、形の洋服を着ている。困難な方は、職員によりその方が引き立つような色や形を工夫している。髭剃りをする方で可能な方は本人に行ってもらっているが出来ない方は職員がお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理担当者が中心に行っているが下ごしらえ、下膳、食器洗い、お茶入れなど出来る方は職員と一緒にいる。食べたいものなど聞いたりして用意したりしている	敬老会では、赤飯に刺身、茶碗蒸し等の人気メニューが並び、たこ焼きのテイクアウトを利用したり、焼きそば等の屋台メニューをチケット制で提供する等の工夫がされている。調理の下ごしらえやお茶入れは、生活リハビリの視点で役割分担が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kcalを目安に1ヶ月の献立が考えている。食事は身体や口腔の状態に合わせて常食・一口大・キザミ・等の工夫をしている。また、脱水にならないよう水分補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず、口腔ケアを行い清潔にしています。また口腔内の炎症や虫歯、義歯の調整等は必要に応じて訪問歯科に来て頂いたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人、毎日の排泄パターンを記録し、時間を見て排泄介助を行いトイレでの排泄に心がけている。オムツ使用の方も可能な限りトイレでの排泄を心がけている。	可能な限りトイレで排泄することを目指して、一人ひとりの状況に応じて日中での介助や排便時の介助、2人体制での介助が行われている。排泄に関する記録は、排泄チェック表にまとめられ、それぞれの排泄パターンやサイン等を職員間で情報共有されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に毎日記録を行い、排便の確認をしている。水分や運動により予防をしているが便秘が続く場合、医師の指示により薬の内服を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様から入浴の後に歯科があるから忙しくて嫌だと言われて曜日を換えたりしました。入浴中も楽しめるように順番に一番風呂に入れるようにしたり、入浴剤を必ず入れたりにしています。	入浴のタイミングや湯の温度等、個々の希望に沿った支援が行われている。拒否がある場合でも、ゆっくりと話しに耳を傾けながら時間をかけて対応している。また、シャワー浴の方は、寒くならないように足浴を行いながら実施するという心配りが行き届いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝はその日の体調に応じて対応している。安心して気持ちよく眠れるように掛け物と室温調節には常に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく出されたり今まで服用していた薬が中止になった時などは口頭と連絡ノートにて情報を共有し要観察し何か変化が見られた場合は速やかに訪問医に連絡している。飲ませ方など、薬剤師に相談したりしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご夫婦の方でどちらかが不安定な時はお互いに声掛けを行えるように支援したり、好きな食べ物やおやつなど職員が買って来て食べられるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の為、外出は控えています。行きたかった病院にお連れしたときは、帰りに好きなお菓子が売っているお店に寄ったりして、買い物を楽しんでもらったりしています。	通院の際には、ドライブと買物を兼ねた外出を行う工夫をして利用者の楽しみにつなげている。中庭では、桃や大根、小松菜等の果実や野菜を得意な職員を中心に栽培しており、収穫されたものを皆で味わう楽しみもある。	リビングから続きのバルコニーを活用し、日常的な外気浴や日光浴が行えるよう環境を整備し、野菜作りに関してもできる範囲で利用者が参加できるようにしていくことに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実際に持っている方はいませんが、毎月のお小遣いでいくら使えるかわかる方にはどのくらい使うか、必要かは相談したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をやり取りされている方もいますし、手紙書けない方には電話でやり取りしてもらったりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、食堂、台所が一つの部屋となっており、料理の匂いも楽しめるように配慮している。庭では野菜を栽培し、旬を楽しめるようにし壁は作品を飾り季節を感じられる様に工夫して楽しんでいる。不快な空間にならないように心がけている。	リビングは、利用者が過ごしやすいようTVやソファの位置を考慮し、食事は安心してゆっくり食べられるように固定の席としている。廊下等の導線部分には物を置かず安全面に配慮し、壁には季節感を大切に飾りをする等、居心地の良い環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、テーブル席、ソファとご自由過ごされておりご自分で移動が困難な方は職員が常に気を配り声掛けをし本人の行きたいところへお連れするようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはベッドや筆筒等馴染みの物を何でも持ってくる事ができ壁や整理筆筒の上には写真等を飾り思い思いに楽しませている。	利用者一人ひとりの居室は、馴染みのタンスや好きな写真、人形等を持ち込み、エアコンの向きや歩きやすいベッドの配置等の細かい部分まで考えられている。温度や湿度については、職員が管理し、常に清掃が行き届いた清潔な環境で居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や出入り口には物を置かないよう安全に心がけ、洗面道具や湯飲み等手の届くところに置くようにしご自分で出来ることはご自分で行って頂くようにしている。		

## 目標達成計画

作成日: 令和 4 年 4 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議で外部の意見を取り入れる仕方が不十分である	運営推進会議で意見を取り入れやすい仕組みを整備する	運営推進会議で議事録を送付し、返信してもらい、意見入れてもらう	6ヶ月
2	6	身体拘束の事例がない、話し合いはしているが記録がきちんと整備されていない	定期会議をし記録を整備する	定期会議を行い、話し合った記録を残す	6ヶ月
3	26	アンケートで介護計画書の説明が不十分との声があった。	ご家族様の意見や要望をくみ取れるようになる	ご家族様に連絡する際にケアプランについてお話しさせて頂く	12ヶ月
4	35	災害対策具体的に運営推進会議などで対策を考える。BCPの作成	災害対策BCPの作成	災害対策BCPを作成し、運営推進会議で報告する。意見を取り入れながらまごめざわ独自のBCPを作成する	12ヶ月
5	49	日常的な外出支援	苑から外に出られる機会を増やす	コロナの状況をみながら定期的に外出できる時間や体制を作る	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。